授業科目名	和文：法律を考えるA－法学－ 英文：Law A:Outline of Civil Law					時間割	金 3-4
科目コード	501-0013	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	日本国憲法B・C 民法						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659

オフィスアワー　曜日及び時間： 火、　4：10～5：40　　**場所：** 西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

1．目的
先ず一般教育（General Education ＝本学では教養基礎と呼んでいる）の目的としては，生まれてから現在まで、親や学校の教師、本・新聞・テレビなどから沢山の知識・考えを受け取り、頭に keep しているわけだが、大学に入ったのをいいきっかけにして、それらを一旦全部 clear する。それから、自分が正しいと納得できるものだけを一つづつ、もう一回頭に収納してゆく。この作業を「自我の確立」と言う。

2．到達目標
自我を確立するためには、これまで「当然」「当たり前」と思って全然疑わなかったことでも、改めて「本当だろうか？」と疑うこと、即ち批判力が必要になってくる。本講では民法・民事訴訟法を題材として、多くの人が正しいと思っていることについて、「実はそうではないんだ」という例を示す。

カリキュラム上の位置付け

最も「一般教育らしい」科目である。これを受けた人と受けない人とでは、専門に入ってから大きな差が出てくると思われる。

授業の概要と進行予定及び進め方

1 高校までの「勉強」と、大学でする「学問」との違い

2 時代の流れ―工業化社会から情報化時代へ―

3 法的安定性と具体的妥当性

4 物権と債権

5 物権の排他性と公示制度

6 動産の公示―占有―

7 不動産の公示―登記―

8 債務不履行と不法行為

9 挙証責任

10 公害訴訟

11 証明と疎明

授業に関連するキーワード	債務不履行	不法行為	登記
占有	挙証責任	公害	証明

成績評価の方法及び合否判定基準

7月中旬の一回の試験で。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するため、出席を取る。

教科書・参考書等

教科書として、
西台著『理論民法』高文堂出版社（2000 円）

授業科目名	和文：日本国憲法Ｂ－自分の憲法観が持てるように－ 英文：The Constitution of Japan B:					時間割	木 5-6
科目コード	501-0042	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部　1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	法学Ａ・Ｂ						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
西台　満	政策科学	3-328、889-2659

オフィスアワー　**曜日及び時間：** 火、　4：10～5：40　　**場所：** 西台研究室（3-328）

授業の目的及び到達目標

1．目的

自分自身の憲法観を構築してもらうこと。学校で教科書を読んだり教師から聞いたり、テレビや新聞から得た知識は、どこまでも他人のものであって君のものではない。ひょっとしたら騙されているのかも知れない。そういうわけで、これまで皆さんの頭の中に詰め込まれてきた知識を一旦フォーマット（初期化＝パソコン用語で、新しいデータを書き込めるように、古いデータを全部消去すること）するような講義をするので、後は自分が正しいと思う考えを一つ一つ選択し、積み上げて行って欲しい。

2．到達目標

（1）憲法学界の多数説が中学・高校の教科書に取り入れられ、それが皆の頭に刷り込まれ、国民の常識のようになっている。そういう憲法観のどこがおかしいのか？　主要な問題を取り上げて、批判する。

（2）たとえ常識みたいに思われていることであっても、自分が納得できないなら納得できるまでとことん考える、という思考力・批判力を鍛える。

カリキュラム上の位置付け

マスコミや他人の考えに流されたりせず自分の考えで行動できる人、あるいは理科系なら発明・発見ができるような人、そういう人には批判的思考力が絶対に必要である。本講は、憲法を題材にして、そういう能力を引き出そうとする。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．憲法の名宛人

2．基本的人権と「法律の留保」

3．天皇制の意義と、国事行為に関する解釈

4．自由と平等の関係

5．「法の下の平等」の意義と法律制定の目的

6．選挙と「法の下の平等」

7．政教分離のあり方

8．三権分立

8．衆議院の解散

9．地方自治を殺す憲法解釈

授業に関連するキーワード	民主主義	法律の留保	ジョン・ロック
三権分立	法治主義	官僚主権	一票の重み

成績評価の方法及び合否判定基準

7月中旬の一回の試験で評価する。
但し、出席の良し悪しを成績に加味するために、毎回出席を取る。

教科書・参考書等

教科書として、
西台満著『日本国憲法原論』高文堂出版社（2667円）

授業科目名	和文：日本国憲法Ｄ－自分の憲法観が持てるように－ 英文：The Constitution of Japan D:					時間割	火 3-4
科目コード	501-0044	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部１～４年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	教養法学，人権の現代的諸相						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡部　毅	非常勤講師	

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

１．目的

日本国憲法の法としての性格や、基本的な理念・原理を踏まえた上で、憲法が人権保障のためにどのような政治システムを定めているのかについて理解を深めることを目的とする。

２．到達目標

１）憲法とはどのような法かを説明できる
２）日本国憲法の基本構造を説明できる
３）各種の憲法問題の基礎を正確に把握できる

カリキュラム上の位置付け

本授業科目は、憲法学上、「統治機構」と呼ばれる分野を中心に講義するものである。「人権の現代的諸相」もあわせて履修することで，憲法の全体的理解が可能となる。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．憲法とはどのような法か
２．日本憲法史
３．国民主権と象徴天皇制
４．法の支配
５．権力分立
６．平和主義
７．地方自治制度

授業に関連するキーワード	憲法	統治機構	皇位継承
法治主義	抑制と均衡	戦争の放棄	地方自治の本旨

成績評価の方法及び合否判定基準

学期末試験の結果に出席状況を勘案し、６０点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書は使用しないが、必要に応じて六法で条文を参照するのが望ましい。
参考書
芦部信喜『憲法』(岩波書店)。

授業科目名	和文：現代社会と経済ＩＡ－経済学入門－ 英文：Modern World and Economy IA:Introduction to Economics					時間割	木 3-4
科目コード	501-0103	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1期
受講対象学生							
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	特になし						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
島澤諭	教育文化学部	889-2657

オフィスアワー　曜日及び時間： 随時　　**場所：** 教文 3-326

授業の目的及び到達目標

1．目的
日常の経済現象の背後にあるメカニズムを理解する。

2．到達目標
経済現象を説明きできる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

この授業では、わが国では近代経済学と呼ばれているグローバルスタンダードな経済学の概要を紹介します。また、経済学は日常の経済現象を扱う学問であるので、現実の経済問題を素材とし、経済学の理解を補強します。
経済学のさまざまな概念は数学で定式化されており、数学と密接に関係しています。したがって、授業では頻繁に数式が登場します。微分・偏微分・全微分・数列・行列・微分方程式の知識を当然の前提とします。
毎回の授業はレジュメ (A4 10 枚程度) に基づき行いますが、ガイダンスで指定する HP より各自ダウンロードし授業に持ってきてください。レジュメの配布はしません。
さらに、各 topics 終了毎に、経済の時事問題に関連する英語文献を読んでレポートを提出してもらいます。当然、レポートの提出は成績と関係します。
要するに、この授業を履修しようとする場合、数学アレルギーおよび英語アレルギーのある人はご遠慮願います。

授業に関連するキーワード	ミクロ経済学	マクロ経済学	市場メカニズム

成績評価の方法及び合否判定基準

成績評価は、授業態度、定期試験および topics 後に課されるレポートの内容により判定します。
合否判定は、相対評価で行い、全体の 70% 以上を合格とします。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。参考書・参考文献は授業中に随時紹介する。

授業科目名	和文：現代社会と経済 II A－現代社会と経済学－ 英文：Modern World and Economy IIA:Contemporary Society and Economics					時間割	金 3-4
科目コード	501-0113	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1～3 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
小林　正雄	教育文化学部	教文 3-327・2658

オフィスアワー　曜日及び時間： 金　16:30～17:30　　**場所：** 教文 3-327（電話：889-2658）

授業の目的及び到達目標

1．目的
経済学（社会科学）の見方・考え方を知り，現代社会をトータルに見る眼を養う。

2．到達目標
やがて進んでいくそれぞれの専門分野（教育，経済・法などの社会領域，医療，技術等）について，どのような角度から見ればいいかを身につける。

カリキュラム上の位置付け

社会・歴史を科学的に考察するための科目の一つであるが，とくに地域科学課程の学生は，専門教育（日本経済論など）の基礎として履修しておくことが望ましい。（「現代社会と経済学」は，同一授業内容ゆえ，A・Bのいずれかを選択し履修すること。）

授業の概要と進行予定及び進め方

1．経済学の面白さ－”発展段階論”の意義－
2．”発展段階論”とはなにか
3～4．”三段階論”の必要性
5～8．純粋資本主義と原理論
　(1) 純粋資本主義とはなにか
　(2) 純粋資本主義と原理論（景気循環）
9～13．”発展段階論”の論理
　(1) 資本主義の発展段階と構成要素
　(2)「２０世紀システム」考
　(3)「２１世紀システム」考
14～15．日本経済への視点

授業に関連するキーワード	三段階論	原理論	発展段階論
現状分析			

成績評価の方法及び合否判定基準

試験あるいはレポートを中心に，出欠状況を加味して，総合的に評価する。

教科書・参考書等

使用の予定

授業科目名	和文：社会と家族Ａ－家族社会学の基礎－ 英文：Society and Family A:the Basis of Family Sociology					時間割	水 3-4
科目コード	501-0190	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部１～３年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
石　沢　真　貴	政策科学	教文 3-331・2616

オフィスアワー　曜日及び時間： 火，水，木　　**場所：** 教文 3-331

授業の目的及び到達目標

１．目的
社会集団の基礎である家族にかかわる現代的諸問題を、家族とは何かを問いつつ考察する

２．到達目標
家族に関する現代諸相の基礎を身につけ、社会問題への関心をもつ

カリキュラム上の位置付け

社会科学的な視角、考察力を養うための基礎的な科目

授業の概要と進行予定及び進め方

1　近代家族の成立
　家族の定義　家族に関する基礎的概念　近代家族の成立
2　近代家族の変遷
　家族機能の変化　世帯構成の変化　産業構造の変化　家族の多様化
3　家族とジェンダー
　結婚　夫婦関係　親子関係　家事・育児・介護　労働
4　これからの家族
　ライフコースの多様化　福祉社会と家族　社会参加

授業に関連するキーワード	家族	結婚	ジェンダー
近代性			

成績評価の方法及び合否判定基準

・授業の最後にレポートもしくは記述試験により成績を評価し、原則として再試験や追試験は行わない
・場合により授業内のレポートや出席数を評価の際に考慮する
・総合的な評価の結果が６０点未満の場合は不合格Ｄとする

教科書・参考書等

・教科書は使用しない
・必要に応じて参考文献を紹介したり、資料を配布したりする

授業科目名	和文：大学生活と学習ＩＡ－キャリア形成入門－ 英文：Campus Life and Learning IA:an introduction to career formation					時間割	月 9-10
科目コード	501-0313	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～3 年次						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
中村　裕	教育文化学部	教文 3-332,2604

オフィスアワー　曜日及び時間： 火 16:00-17:00　　**場所：** 教文 3-332

授業の目的及び到達目標

１．目的

明確な目的意識をもって主体的に自らのキャリアについて考える姿勢を確立する。就職活動を有利に進めるための how to ものと考えて受講すると失望する。

２．到達目標

1. 仕事をするといういうことの意味を考える態度を身につける。
2. 将来自分が仕事をする世界を取り巻く環境について正確に理解する。
3. 自分の希望を達成するために何をしなくてはならないのか等に関して自己分析を行う力　をつける。

カリキュラム上の位置付け

文字通りキャリア形成入門

授業の概要と進行予定及び進め方

1. ガイダンス―大学での経験がキャリア形成にとって持つ意味
2. 今年度の就職をめぐる状況―『労働経済白書』を読む
3. 労働の意味を考える―今村仁司『近代の労働観』（岩波新書）を手がかりに
4. 講演「秋田大学の学生に求められるもの」
5. 日本の労使関係（1）―高度経済成長と「会社人間」
6. 日本の労使関係（2）―新自由主義のなかでの変容
7. 講演「企業のなかでの能力の生かし方」
8. 講演「新聞はこう読もう」
9. 公務員の世界（1）―公共サービスとは何か
10. 公務員の世界（2）―地域社会を創るという発想
11. 講演「山王―公務員の世界から見えてくるもの」
12. 講演「勤労者にとっての法律学」
13. 講演「職業選択の方法」
14. まとめと意見発表―職業観の再構築
15. レポート―卒業後の進路について

授業に関連するキーワード	キャリア	職業観	日本的労使関係
雇用形態の多様化	会社人間	公共サービス	主体的選択

成績評価の方法及び合否判定基準

授業参加の積極度＋レポート

教科書・参考書等

今村仁司『近代の労働観』（岩波新書）、ロナルド・ドーア『働くということ』（中公新書）

授業科目名	和文：日本論Ａ－「ニホン」か「ニッポン」か－ 英文：Lecture on Japan A:Nihon or Nippon ?					時間割	集中
科目コード	502-0011	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部 1～3 年						
授業の形式	講義	備考	別途掲示により通知				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
熊田亮介	文化環境	教文 3-337・2668

オフィスアワー　曜日及び時間： 木　14:30～17:30　　**場所：** 教文３－337（電話：889-2668）

授業の目的及び到達目標

１．目的

日本の近現代史を中心として，ともすれば固定的にとらえがちな「日本」をめぐる諸問題について再検討を加え，従来の日本史像を見直す視点を提供する。

２．到達目標

講義で取り上げる問題について，関係文献を読み，多様な視点から検討を加えて，自分の意見を取りまとめる。

カリキュラム上の位置付け

授業の概要と進行予定及び進め方

1.　国号「日本」の成立はいつか
2～3.「にほん」か「にっぽん」か
　国号の読み方の歴史をたどり，その歴史的課題について考える。
4～5. 祝日の歴史
　国定教科書に登場する祝祭日と現在の祝日の歴史をたどり，その歴史的課題について考える。
6～7.「日本人」とは
　日本人の定義について検討し，家族国家論・国民国家論・単一民族国家論について考える。
8.　改めて「日本」を問う

授業に関連するキーワード	日本		

成績評価の方法及び合否判定基準

各授業時間に行う小レポートと複数回のレポートをもとに評価する。

教科書・参考書等

教科書は使用せず，授業用資料をその都度配布する。参考書は随時紹介する。

授業科目名	和文：日本事情Ⅰ－異文化コミュニケーション入門－ 英文：Studies on Japan　I:Understanding Japanese Culture Through Communication					時間割	月 3-4
科目コード	502-0030	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部の学生						
授業の形式	講義・学生参加型	備考	学生参加型				
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	異文化コミュニケーションⅣ、その他異文化コミュニケーション関連科目						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
宮本 律子	教育文化学部	教文3－229・2688

オフィスアワー　曜日及び時間： 火曜日１３：００－１６：００　　**場所：** 宮本研究室（教文3－229）

授業の目的及び到達目標

１．目的
体験を通して異文化コミュニケーションの方法を身につける

２．到達目標
（1）留学生と日本人学生が真に深い交流を行う
（2）共同で作品を作り上げるということを通して、異なる文化背景を持つ相手とのコミュニケーションの仕方を模索する
（3）自分の思考・行動様式を客体化出来るようになる。
（4）日本と秋田をより深く知る

カリキュラム上の位置付け

教養教育科目、目的・主題別科目の一科目である。
1年次の学生や新しい留学生にとっては、大学生活のためのオリエンテーション教育となる。2年次以上の学生にとっては、新しい人間関係を発見する場になる。

授業の概要と進行予定及び進め方

コミュニケーションゲームや討論などを通して、交流を深めつつ、グループに分かれて、興味のあるテーマについて共同で作品を完成させる。グループ活動が中心。

流れとしては
（1）自己紹介ゲーム、学外での花見などを通して交流を深める。
（2）前年度の授業で実施されたプロジェクトの作品を鑑賞し、作品作りのイメージをもつ。
（3）グループに分かれて、様々なテーマについて討論する（3回～4回グループを変える）
（4）グループで、中間発表のテーマを決定→この後はグループごとの活動となる。
（5）中間発表（Power Point 使用、グループ単位）
（6）期末発表（Power Point 使用、中間発表とは別なグループ）
（7）個人レポート提出

授業に関連するキーワード	異文化コミュニケーション	文化の相対性	多文化共生
自己の開示	共同作業		

成績評価の方法及び合否判定基準

この授業は参加することに大きな意味がある。従って出席を重視する。

中間発表２０％、期末発表２０％、個人レポート３５％、出席２５％

教科書・参考書等

教科書は使用しない
資料を授業中に配布する

授業科目名	和文：社会と地域Ａ－都市社会学の基礎－ 英文：Society and Community A:Introduction to the Urban Sociology					時間割	火 3-4
科目コード	502-0120	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部						
授業の形式	講義	備考	簡単な内容の授業ではないので、関心のある内容かどうか、しっかりとシラバスを検討してから受講するようにして下さい。				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
和泉　浩	教育文化学部	018-889-2649

オフィスアワー　曜日及び時間： 随時　　**場所：** 教育文化学部3号館322

授業の目的及び到達目標

1．目的

現代における地域と社会の諸問題・諸事象を社会学的視点からとらるために、社会学の考え方、特に都市社会学の基本的な理論と今日の理論展開について学ぶ。

2．到達目標

1. 社会学とは、どのような学問なのか理解する。
2. 都市社会学のこれまでの基礎的な理論と理論潮流および「空間論的転回」以降の社会学と地理学の理論状況等を理解する。

カリキュラム上の位置付け

都市社会学、社会学一般の基礎となる授業で、特に他の授業の履修を前提にするものではありません。ただし、さまざまな理論を取りあげるので、抽象的で難しい内容も含みます。

授業の概要と進行予定及び進め方

授業予定（以下の各講での内容は、授業の進み具合などにより変更します）。

第1講　授業についての説明
第2講　「社会」とは
第3講　「地域」とは
第4講　社会学的視点の特徴
第5～6講　地域社会、地域コミュニティの現状と問題
第6～9講　都市社会学の基礎と都市研究の理論潮流
（ジンメル、シカゴ学派からミシェル・フーコーの都市論まで）
第10～15講　「空間論的転回」以降の社会学と地理学

授業に関連するキーワード	社会学	地域	社会理論
都市	空間論的転回		

成績評価の方法及び合否判定基準

授業に関連する内容についてのレポートで成績を評価します（レポートは複数回の場合あり）。レポート課題については授業内でのみ説明を行い、それ以外、掲示や、欠席した場合の個人的な問い合わせに対する説明などは行いません。レポートは締め切り厳守で、締め切り日「時」をすぎたレポートは評価の対象外にします。またほぼ同一内容のレポートがあった場合は、そのすべてのものをＤにします。手書きのレポートは基本的に不可とします。レポートは英語でも可です。追試験・再試験は行いません。

教科書・参考書等

教科書と参考文献（和書および主に英語の洋書）は、授業の内容に関連するものを、そのつど授業のなかで指示します。

授業科目名	和文：地理と地誌Ⅰ－地誌学入門－ 英文：Regional Geography I:Introduction to Reginal Geography					時間割	金 3-4
科目コード	502-0141	必修・選択	選択	単位・時間数	2・	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義・実習	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名	自然地理学入門、人文地理学入門、地誌学概論						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
篠原　秀一	教育文化・文化環境	3-335・2663

オフィスアワー　曜日及び時間： 平日午後随時　　**場所：** 教育文化3号館335研究室

授業の目的及び到達目標

1．目的
1）地理写真、地図、地名、地誌に親しむ。
2）地誌および地誌学の基本を学ぶ。

2．到達目標
1）地誌の意味と役割を簡単ながら説明できる。
2）様々な地理写真を簡単ながら説明できる。
3）様々な地図から地誌的基本情報を解読できる。
4）様々な地名を地誌学的に簡単ながら考察できる。

カリキュラム上の位置付け

地誌学・人文地理学・自然地理学の地理学全般にかかわる導入授業の1つでもあり、「地理学概論」へと続くものである。

授業の概要と進行予定及び進め方

地理写真・写真地誌と様々な地図・地名を題材として、地誌学の基本的な知識、地域のとらえ方を習得する。配布プリントと板書を中心とし、地図・地理写真・写真地誌・地誌の現物も回覧して講義する。作業学習の時間も含む。12色鉛筆が必要となる。地形図1枚（300円弱）の購入を求めることもある。

1．地理写真と写真地誌
　1）地理写真とは　　2）地理写真を読む　　3）写真地誌
2．多種多様な地図
　1）地図のある生活　　2）地図の定義と種類・分類
3．地図の作成と活用
　1）近代的地図の整備と作成　　2）地形図の図式　　3）地図（地形図）の活用
4．地名の由来と分布
　1）自然地名と社会的地名　　2）異種・同種地名の分布と配置

授業に関連するキーワード	地理写真	地図	地形図
読図	地名	地誌	

成績評価の方法及び合否判定基準

筆記試験（40％）、レポート（40％）、授業中の質疑応答と出席状況（20％）による。
原則として3回以上の欠席を認めない。
総合的に評価して100点満点で60点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書および参考書は授業時に随時紹介する。

授業科目名	和文：地理と地誌 II －自然地理学入門－ 英文：Regional Geography II:Introducing Physical Geography					時間割	火 3-4
科目コード	502-0161	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1 期
受講対象学生	全学部 1・2 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
肥田　登	教育文化	2664

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目的
水文学（すいもんがく，Hydrology）の基礎，特に水循環等に関する基礎的な諸事項についての理解を深める。

2．到達目標
水循環，水環境等の問題をとらえる基本的な視点をもてるようにしたい。

カリキュラム上の位置付け

「水文学 I,II」と関連

授業の概要と進行予定及び進め方

概略，次の流れで講義を進める

1．地球の水循環
2．陸地の水循環
3．降水量のとらえ方
4．河川流量のとらえ方
5．地下水の定義
6．地下水流量のとらえ方
7．蒸発散のとらえ方
8．水環境の保全・管理

授業に関連するキーワード	水文学	水循環	水環境
水資源	地下水		

成績評価の方法及び合否判定基準

期末試験，小レポート（授業にそって課す），水利用・水環境に関する課題レポートを総合的に評価する。

教科書・参考書等

授業にそって示す

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 III A－地域史を歩く－ 英文：Nature and Culture in Akita IIIA:Regional History in Edo Period					時間割	火 5-6
科目コード	502-0193	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期前半
受講対象学生	全学部　1～3 年						
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡辺英夫	教育文化学部	教文 3-336・2667

オフィスアワー　曜日及び時間： 月～金　16 時以降　　**場所：** 研究室

授業の目的及び到達目標

1．目的
土地に刻まれた歴史を読み取る。

2．到達目標
城下町久保田 (秋田) でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。

カリキュラム上の位置付け

日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．近世都市を考えることの意味

2．近世都市の構造　その１　戦国から平和へ

3．近世都市の構造　その２　城下町と街道

4．近世都市の構造　その３　城下町と水運

5．近世都市の構造　その４　城下町と身分

6～7．フィールドワーク

8．レポート提出　討論

授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史
歴史の視点	フィールドワーク		

成績評価の方法及び合否判定基準

フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習態度・意欲 (10 %)、フィールドワーク (40 %)、レポート (25 %)、出席状況 (25 %) の割合で判定します。

教科書・参考書等

塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001 年、本体価格 1900 円

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 III B－地域史を歩く－ 英文：Nature and Culture in Akita IIIB:Regional History in Edo Period					時間割	月 1-2
科目コード	502-0194	必修・選択	選択	単位・時間数	1・	開設学期等	1期後半
受講対象学生							
授業の形式	講義・実習・学生参加型	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡辺英夫	教育文化学部	教文 336・2667

オフィスアワー　曜日及び時間：　月～金　16 時以降　　場所：　研究室

授業の目的及び到達目標

1．目的
土地に刻まれた歴史を読み取る。

2．到達目標
城下町久保田 (秋田) でのフィールドワークに基づき、他の近世都市・城下町の成り立ちについても考察できるよう、その能力を養成する。

カリキュラム上の位置付け

日本近世史を専門的に研究していくための導入ではない。日本の歴史に関心を持つ一般の学生を対象にして、いま目の前に現存している街の姿から、その都市の歴史を考察していく能力を養い、地域の歴史により一層の関心を深めて貰いたい。

授業の概要と進行予定及び進め方

1．近世都市を考えることの意味

2．近世都市の構造　その１　戦国から平和へ

3．近世都市の構造　その２　城下町と街道

4．近世都市の構造　その３　城下町と水運

5．近世都市の構造　その４　城下町と身分

6～7．フィールドワーク

8．レポート提出　討論

授業に関連するキーワード	城下町	近世都市	地域の歴史
歴史の視点	フィールドワーク		

成績評価の方法及び合否判定基準

フィールドワークへの出席が絶対の前提条件です。その上で、学習意欲・態度 (10 %)、フィールドワーク (40 %)、レポート (25 %)、出席状況 (25 %) の割合で判定します。

教科書・参考書等

塩谷順耳他著『秋田県の歴史』山川出版社、2001 年、本体価格 1900 円

授業科目名	和文：秋田の自然と文化 IV A－秋田の自然・資源・社会・文化－ 英文：Nature and Culture in Akita IVA:Nature, Mineral Resources, Society and Culture in Akita					時間割	木 7-8
科目コード	502-0233	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1 期後半
受講対象学生	全学年						
授業の形式	講義	備考	石沢 真貴 政策科学 教文 3-322・889-2616				
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
水田 敏夫	地球資源	工資 G310・889-2380	石沢 真貴	政策科学	教文 3-322・889-2616
石山 大三	地球資源	工資 G311・889-2370	吉岡 尚文	法医学	医 ・884-6092
井上 正鉄	人間環境	教文 4-412・889-2588	清水 徹男	精神科学	医 ・884-6119

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目的

秋田大学で学ぶ大学生として，秋田の自然社会，文化等の背景と環境を知り，秋田の特色を学び，爾後の専門教育との位置づけと係わり，地域と連携について考えることを目的とする．

2．到達目標

1）限りある地下資源の基礎的知識を学習し，世界有数の秋田県の黒鉱鉱床資源を認識し，資源の生成機構を理解できる．
2）世界自然遺産地域に指定された白神山地の生態系を理解し，人間との共存の道を探ることができる．
3）秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から読み取ることができる．
4）秋田県の自殺の実態を把握し，その真の動機や問題点を考えることができる．
5）飲酒と文化，健康，法律との係わりについて学び，危険な飲酒習慣について認識を深めることができる．

カリキュラム上の位置付け

人間生活に深く関連する事柄に中で，秋田の資源や文化に密接に係わる問題を取り上げ，3 学部の教官がそれぞれの専門分野を生かした講義を行う（本年度の担当責任者は水田 敏夫）．

授業の概要と進行予定及び進め方

第 1 回（水田）：限りある地下資源について，エネルギー資源・金属資源の賦存状況，そして金属の濃集による鉱床の生成を概説し，地下資源賦存の基礎的知識を学習する．

第 2 回（井上）：秋田県内には十和田湖・八幡平国立公園をはじめとする多くの自然公園や世界自然遺産地域に指定された白神山地がある。これらはブナ自然林に広く覆われて多様な生物を育んでいる。秋田が誇る豊かな生態系を紹介して，人間との共存の道を探る。

第 3 回（井上）：世界遺産地代白神山地を紹介し，白神山地の保護・管理の在り方を探る．

第 4 回（水田）：秋田県は日本有数の地下資源の宝庫として知られている．県周辺の地下資源の賦存状況を概説し，秋田県北東部の北麓地域に分布する世界有数の黒鉱鉱床の地質と火山活動，鉱床探査技術，そして世界への貢献について紹介し，資源問題を考える．

第 5 回（石山）：地学や地質の自然物を対象とする学習は，実際に野外における観察や実物に触れることが大切である．資源に関する講義の理解度をより高めるために，本学が世界に誇る鉱業博物館の展示物（鉱物，鉱石等）を見学・観察する（学生ボランティアも参加）．

第 6 回（石沢）：秋田の生活，秋田県民の生活の特徴を種々の統計資料から明らかにする．

第 7 回（吉岡）：秋田県の自殺者数は毎年 400 人を越えており，特に平成 11 年度は 500 人に達した．自殺率にすると 30 ポイント以上であり，全国 1 位が続いている．高齢者の自殺が多い点が特徴で，女性では半数以上が高齢者で占められている．自殺の動機，背景には病苦が一番多いが，真の動機は別の場所に潜んでいるようである．秋田県の実態を具体的に提示し，皆でこの問題を考えてみたい．

第 8 回（清水）：「飲酒による光と影」秋田県は日本有数の米どころ酒どころであると共に，県民 1 人当たりのアルコール消費量においても全国のトップクラスにある．この講義では飲酒と文化，健康，法律との係わりについて解説すると共に，危険な飲酒習慣について学生諸君の認識を深めることを目的とする．

メッセージ：プリント，PC Projector，OHP を用いながら講義を進める．自然物を対象とする地学や生物学は，講義に加え，野外に出かけたり，本学の鉱業業博物館等で観察することが望ましい．

授業に関連するキーワード	秋田の地質とエネルギー資源	黒鉱鉱床	世界遺産と白神山地
秋田の自然	秋田の生活	自殺	酒の功罪

成績評価の方法及び合否判定基準

出席点及び授業内容に関するレポート（50 %），簡単な小テスト（50 %）で評価する．
80 点以上を A, 79～70 点を B， 69～60 点を C とし，それ以下を不合格とする．

教科書・参考書等

特に使用しない．

授業科目名	和文：秋田の自然と文化Ｖ －地域の生活史－ 英文：Nature and Culture in Akita V:Life Culture History of Regional Society					時間割	月 3-4
科目コード	502-0240	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部１～４年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
渡部　育子	教育文化学部	教文 3-325・2615

オフィスアワー　曜日及び時間： 木 7・8　　**場所：** 教文 3-325（要アポイントメント）

授業の目的及び到達目標

１．目的
地域を舞台に展開した人々の生活の歴史を理解する。

２．到達目標
歴史学的視座をもって、秋田の地域的特質を理解する。

カリキュラム上の位置付け

本講義は目的・主題別科目のうち「地域社会論」分野を構成する。

授業の概要と進行予定及び進め方

１．ガイダンス
２．日本列島の中の秋田
３．フィールドワーク
４．　　〃
５．　　〃
６．フィールドワークの報告
７．古代の秋田（1）
８．古代の秋田（2）
９．フィールドワーク
１０．　　〃
１１．　　〃
１２．東アジアと秋田（1）
１３．東アジアと秋田（2）
１４．まとめ
１５．レポート提出

授業に関連するキーワード	秋田	環日本海地域	

成績評価の方法及び合否判定基準

出席・授業中の提出物 40 %（原則として欠席は認めない）
レポート 60 %

教科書・参考書等

授業中に紹介する。

授業科目名	和文：秋田大学論Ⅰ－秋田大学の歴史とこれから－ 英文：Lecture on Akita University I:Study on Development of Our University					時間割	水 1-2
科目コード	502-0212	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部1～4年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名	特になし						
内容的に密接に関係する授業科目名	秋田大学論II―がんばれ！秋大生―（502-0223）						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
教育推進主管（責）		一般教育1号館203室

オフィスアワー　曜日及び時間：　　場所：

授業の目的及び到達目標

1．目的
秋田大学の歴史・現状・将来展望について学ぶ。

2．到達目標
・秋田大学の歴史・沿革について，概略を説明できる。
・秋田大学で学ぶことに対しての意欲を高める。

カリキュラム上の位置付け

教養基礎教育の目標1．「高校教育から大学教育への円滑な導入・転換を図り、大学生としての学習方法の基本に習熟させる」及び，目標5．「知性・情操・身体の各面における教育を通じて豊かな人間形成を目指す」に密接に関連する科目である。

授業の概要と進行予定及び進め方

「秋田大学論Ⅰ」では，学長をはじめ，本学の各部門の指導的立場に立つ教職員が，秋田大学の歴史，現状，将来展望について講義します。講義を通じて秋田大学の諸側面について理解するとともに，秋田大学でどのような学生生活を過ごすか，何を学ぶかについて，深く考察してほしいと思います。

講義担当予定者は次の通りです。担当順は，決定次第，掲示によりお知らせします。

・学長
・理事（教育担当，学術研究担当，社会貢献・国際交流担当，総務担当）
・教育文化学部長
・医学部長
・工学資源学部長

授業に関連するキーワード	秋田大学	大学生	教養教育
学士課程教育	歴史	将来展望	

成績評価の方法及び合否判定基準

毎回授業終了時に提出する小レポートによって評価します。各レポートに対して評価を行い，
全体の得点が80％以上：A，70％以上80％未満：B，60％以上70％未満：C，60％未満：Dとします。
ただし，小レポートの未提出が3回に達した時点で，履修放棄とみなします。

教科書・参考書等

教科書は特に使用しません。

授業科目名	和文：地球の環境と資源ＩＡ－地球環境と化学元素－ 英文：Global Environment and Resources IA:Chemical elements and global environment					時間割	金 5-6
科目コード	503-0018	必修・選択	選択必修	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部全学年						
授業の形式	講義	備考	16年度以降入学者、15年度以前の入学者は教務課にお問い合わせください。				
履修する際に前提とする授業科目名	特にありません。高校で理科総合Ａを履修していれば、化学I,IIを履修していなくとも、学習によって理解できる内容です。						
内容的に密接に関係する授業科目名	「地球の環境と資源IIB-地球環境と放射線」「地球の環境と資源III-環境モニタリングと大気環境」						

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
岩田吉弘	教育文化学部自然環境講座	教文3-218・2622

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日、13時から14時30分まで　**場所：** 教文3-218

授業の目的及び到達目標

１．目的
地球環境における化学元素の分布と生体内での機能についての理解

２．到達目標
１，元素の生成と地球環境での分布について理解し説明できる。
２，生体内での化学元素の存在量と機能について理解し説明できる。

カリキュラム上の位置付け

環境、化学、生命科学を専門とする学生には、地球化学、無機化学、生物無機化学の入門的な内容。それらを専門としない学生には、地球環境と化学の関わりについて教養を高める内容。

授業の概要と進行予定及び進め方

1，化学元素の定義と単位、記号
2，地球の構造
3，宇宙における元素の生成と存在量
4，地圏、大気圏での元素の存在量
5，水圏、特に海洋における元素の存在量と移動
6，生体における元素存在量
7，生体における化学元素の機能

８回目の授業時間は、「まとめ」と認められた事由で授業を欠席した者に対する「再試験」を行います。

＊遅刻者は最前列への着席していただきます＊

授業に関連するキーワード	地球	大気	海洋
生体	化学元素	必須元素	有毒元素

成績評価の方法及び合否判定基準

授業3回目以降、毎回10分程度の小試験を行います。
合否：小試験の成績が60％以上を合格とします。
評価：A　100－80％，B　79－70％，C　69－60％，D　59－0％，履修放棄：出席日数が2/3に満たない者
受講者が確定した段階でプリントとバーコード付き出席票をまとめて配布します。紛失しても原則として再配布しません。
成績不振者、無断欠席者に対するレポート提出や再試験等による救済措置は一切行いません。

教科書・参考書等

参考書・教科書は用いません。プリント、OHPを利用します。

授業科目名	和文：地球の環境と資源 IV A －地層の話－ 英文：Global Environment and Resources IV A:Introduction to Geological Sciences					時間数	水 9-10
科目コード	503-0123	必修・選択	選択	単位・時間数	2・30	開設学期等	1期
受講対象学生	全学部1～3年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
白石建雄	工学資源学部	工資 2-B304・2652
佐藤時幸	工学資源学部	工資 2-G212・2371
山元正継	工学資源学部	工資 2-G306・2375

オフィスアワー　曜日及び時間： 木曜日，12：00～12：30　　**場所：** 工資 2-B304

授業の目的及び到達目標

1．目的

地層記録を素材として，地球科学的自然認識方法，ならびに地球上で生起する諸現象とその自然史的展開を学び，歴史性を背負った存在としての地球に関する認識を深めることを目的とする。

2．到達目標

1）地層が地球史のデータバンクであることを具体例にもとづいて説明できる。
2）地質学的自然認識方法を解説できる。
3）地球史が単なる漸進的変化ではなく，さまざまな事件で構成されていることを理解できる。
4）地震や火山噴火などの地学的事象の発生を支配している統一的過程について説明できる。
5）日本列島に自然災害が多発する原因の理解にもとづき，日常生活のあり方について考察できる。

カリキュラム上の位置付け

本講義は目的・主題別科目のうち，「自然環境と地球」を構成する。受講するにあたり，高校までの平均的知識のほか，特別な予備知識は前提しない。

授業の概要と進行予定及び進め方

基礎編
1．ガイダンス
2．地層は時計である；地質学的認識の基礎
3．古生物の進化と地質時代区分；地質時代区分は何を根拠にして行われているか
4．年代を測る；地質時代の年数はどのようにして測定されているか

各論編
5．ワンダフルライフーカンブリア紀の爆発ー；高等動物大量出現の時，何が起こったか
6．大量絶滅の謎；恐竜やアンモナイトはなぜ一斉に地球上から姿を消したのか
7．マグマのはたらき；火山噴火を起こすものの正体
8．火山噴火のタイプ；火山噴火はどのように起こるのか
9．地層の形成；地層のできかた
10．気候は変動する；地層記録によれば，地球上の気候は驚くほど大規模に変化する
11．地磁気は逆転を繰り返した
12．地層の変形と地殻変動

総括編
13．海洋底は拡大している；海洋底は大洋中央海嶺で形成され，水平方向に移動する
14．プレートテクトニクス地球表層で進行している基本過程
15．日本列島はどういう所か；日本列島ではなぜ地震災害，火山災害が多いのか

授業に関連するキーワード	地質学	古生物（化石）	進化
マグマ	火山噴火	地球環境変遷	プレートテクトニクス

成績評価の方法及び合否判定基準

期末の試験結果で判定する。６０点以上を合格とする。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。毎回の講義にプリントを配付するとともに参考書を紹介する。

授業科目名	和文：地球の環境と資源ＶＡ－資源問題と地球環境－ 英文：Global Environment and Resources VA:Problems of Resources and Environment					時間割	木 7-8
科目コード	503-0163	必修・選択	選択	単位・時間数	1・15	開設学期等	1期前半
受講対象学生	全学部 1～3 年						
授業の形式	講義	備考					
履修する際に前提とする授業科目名							
内容的に密接に関係する授業科目名							

担当教員名	所属	学内室番号・電話番号	担当教員名	所属	学内室番号・電話番号
佐藤　博	地球資源	工資 2-B214・2388	菅　勝重	地球資源	工資 2-B210・2480
高島　勲	工資研究施設	工資 研-204・2449	杉本文男	地球資源	工資 2-B215・2394
村上英樹	工資研究施設	工資 研-207・2446	今井忠男	地球資源	工資 2-B214・2388
山口伸次	地球資源	工資 2-B206・2387			

オフィスアワー　曜日及び時間： 随時　　**場所：** 上記教員室

授業の目的及び到達目標

１．目的

私たちが資源を入手し，それを利用するとき何が問題となるか，また資源の開発・消費が地球環境にどのような影響を与えるかを学習する。この問題は，私たちが社会の様々な分野で様々な形で活動するとき常に何らかの形で関係してくるものであり，そのようなときにどう考えたらよいかを，この授業を通じて理解することを目標とする。

２．到達目標

1）資源と地球環境についての社会的な関心を持つこと。
2）資源と地球環境について様々な要因と異なる考え方があることを理解し，その解決手法について自らの意見を説明できること。

カリキュラム上の位置付け

社会的な問題である資源と地球環境についての教養とそれに対する自身の意見をもつこと。

授業の概要と進行予定及び進め方

第１回：　担当，佐藤
資源・エネルギー開発に伴って発生し，マスコミ等で取り上げられた環境問題を，新聞記事（和文，英文）に基づいて解説する。

第２回：　担当，高島
資源エネルギー利用の現状と課題について解説する。

第３回：担当，村上
原子力エネルギーの可能性と問題点について解説を行う．特に，エネルギー政策としての利点，環境への影響，廃棄物処理問題等を中心に説明する。

第４回：担当，山口
石油エネルギーの現状と地球温暖化対策について説明する。

第５回：担当，菅
海洋資源開発に伴う環境問題の現状と将来について説明する。

第６回：担当，杉本
金属資源の開発，輸入，閉山後の環境問題について説明する。

第７回：担当，今井
人はこれまで「どのようにして鉱物を道具として利用してきたか」，「どのようにして有用な鉱物を発見し開発してきたか」，「それらに伴う環境問題とは何であったのか」について，身近な材料や道具を例にとって考え，説明する。
また，レポート課題について説明する。

第８回：担当，今井
　課題レポート提出日

なお，都合により上記の講義の順番を入れ変えることもある。

授業に関連するキーワード	資源の将来	資源リサイクル	資源開発の歴史
環境・経済倫理	エネルギー資源	大気 CO2 と地球温暖化	資源開発技術

成績評価の方法及び合否判定基準

授業への参加度および課題レポートを総合して評価する。

教科書・参考書等